

能楽面袋に関する染織文化史的研究—分野横断的検証による
Noh and Kyogen Mask Covers
—Historical Textile Research Using Cross-Disciplinary Methods

門脇 幸恵*¹⁺, 田邊 三郎助*²⁺, 杉山 未菜子*³⁺, 花田 美穂*⁴⁺
Yukie Kadowaki*¹⁺, Saburousuke Tanabe*²⁺, Minako Sugiyama*³ and Miho Hanada*⁴⁺

*1 独立行政法人日本芸術文化振興会国立能楽堂 東京都渋谷区千駄ヶ谷 4-18-1

Nationaru Noh Teatre of Japan, Japan Arts Council
4-18-1 Sendagaya Shibuya-ku, Tokyo, Japan

*2 町田市立博物館

Machida City Museum

*3 福岡市博物館

Fukuoka City Museum

*4 米沢市立上杉博物館

Yonezawa City Uesugi Museum

+服飾文化共同研究拠点、文化ファッション研究機構、文化学園大学

Joint Research Center for Fashion and Clothing Culture

Bunka Fashion Research Institute, Bunka Gakuen University

Abstract: The object of our study is the covers (menbukuro) used for the storage of Noh and Kyogen masks. These covers have often been handed down together with the masks over many centuries. They are frequently constructed from precious textiles and take a variety of forms. The choice of textile is significant as an indicator of the aesthetic sense and financial resources of the owner of the masks. Careful analysis of the forms of the covers can reveal important information about the movement of individual masks and collections over time.

The purpose of our study is both to collect and evaluate data on covers associated with important masks and collections, (for example, size, form, textile, inscription etc), and to develop this important new methodology in the study of historically significant masks .

【はじめに】

本研究は、芸能と相即不離の関係にありながら、無形文化の道具として扱われている染織文化財に光を当て、その文化価値を複合的に検証しようとするものである。能面は芸能の精神性を象徴する依代として別格に扱われるが、それを保管する面袋もかつては面の格に相応しい名物裂や舶載の染織品、さらには能装束を仕立てた残余か傷みの生じた装束の損傷の少ない部分を生かして作られていた。また、大名家では、各家の特徴ある染織品による様々な形状の作品が用いられており、大名家の伝来が明らかな作品群から調査を開始することとした。また、能道具類は、売り立てにより市場に流出した作品も多々あり、それらを多く含むと考えられる個人コレクションをも調査対象とする。

*1) yukie@ntj.jac.go.jp

【本年度の調査対象】

- ・大聖寺藩前田家伝来能楽面袋＝国・文化庁(国立能楽堂保管)
- ・加賀藩前田家伝来能楽面袋＝松坂屋コレクション
- ・黒田家伝来能楽面袋＝福岡市博物館
- ・細川家伝来能楽面袋＝財団法人永青文庫・熊本県立美術館
- ・紀州徳川家能楽面袋＝マーヴインコレクション(和歌山県立博物館保管)
- ・久松松平家伝来能楽面袋＝松山市東雲神社
- ・伝来未詳＝濱村コレクション(上田市立博物館保管)

【方法】

- ・調査項目の選定: 面袋を主たる調査対象とした例は無く、調査方法の指針となる調書フォーマットを作成する。
- ・調査手順 : 面袋・面当・付属物の撮影。
それぞれの形状・法量の計測、材質の検証。
銘文等の記録。
- ・調査作品の選定: 田邊調書を基に調査対象を選定する。
田邊調書のある作品群は、調書と内包する能楽面を照合しつつ袋を調査する。
田邊調書のない作品群は、能楽面と袋の双方を調査する。
- ・データベース化 : 写真及び調査内容を順次データベースに移入する。

【現在までの結果】

・調査項目の選定

国立能楽堂に於いて所蔵能楽面と大聖寺藩前田家伝来作品、更に松坂屋コレクションの加賀藩前田家伝来能楽面袋の調査を行い、基本情報を記録・整理しつつ調査項目の確定をした。

* 現在までに得られた結果

- a. 面袋の形状は様々で、同一作品群にあっても数種類が存在する。

いずれも松坂屋コレクション(Matsuzakaya collection)



b. 題簽の特徴

イ. 国立能楽堂コレクション



Nntj collection

ロ. 大聖寺藩前田家伝来



Daisyouji Maeda Family's item(national ownership)

ハ. 大聖寺藩前田家伝来



イ 縞子や綸子、平絹に刺繍で面の名称を墨書し、縫い付けたもの。

ロ 刺繍で面の名称を縫い表わし、袋に縫いつけ、更に縁を刺繍でかがり付けたもの。

ハ 面袋の生地に織り表わしたもの。

* 面袋の形状は内包させる能楽面の形状により変化する。これは面袋本来の保護材としての役割による要因である。

◎伝来

a 異なる作品群にありながら、同一の染織品を使用しているもの。

ニ. 松坂屋コレクション

Marvin collection

ホ. マーヴインコレクション

Matsuzakaya collection



* 二は、加賀藩前田家の売立てにより面箆筒ごと購入しているため伝来が明らかであったが、ホは、面袋により、その伝来が明らかとなった。

加賀藩前田家の面袋は、装束の畳紙同様、作者や伝来、修復の記録が記されるものがあり、当時の御細工所の担当者により記されたものと考えられる。

へ. Nntj collection ト. Daisyouji Maeda Family's item



へ. 国立能楽堂コレクション

ト. 大聖寺藩前田家伝来

*いずれも「獅子口」の面袋であるが、ハの伝来は明らかではない。しかし、二の面袋と、題簽の材質・形状の特徴が一致する。

チ. 松坂屋コレクション
(Marvin collection)

リ. 大聖寺藩前田家伝来作品
Daisyouji Maeda Family's item(national ownership)



チ. は加賀藩前田家伝来作品であり、リ. はその支藩である大聖寺藩前田家伝来能面の面当である。共通する染織品や題簽の特徴が一致する作品が存在し、双方の能道具の交流が窺える。

◎多様な染織品

ヌ. 桃山時代の縫箔と初期唐織

ル. 更紗裂

Nuihaku, karaori (momoyama period)

calico



●現在までに調査した作品は約 500 件程度に留まるが、面袋は単なる能楽面の保護材ではなく、それぞれの所有者の個性と美意識が反映されたものであり、それにより、能楽面単体では得られなかった情報を伝える重要な証言者であることが明らかとなった。また更に、能楽面袋には用いられている染織作品は多岐にわたっており、今後はそれらを慎重に精査し、服飾文化史にフィードバックさせたいと考える。